

[illegible]

第14回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2024

The 14th International Poster Triennial in Toyama 2024

2024年10月12日(土) - 12月15日(日)



IPT2024第二次審査会の様子 撮影：柳原良平

「ポスタートリエンナーレトヤマ」(IPT)は、富山県美術館が主催するポスターの国際公募展です。前身の旧・富山県立近代美術館において、IPTの第1回公募・入選作品が展示されたのは1985年。富山で継続してきたこの公募・展覧会は、40年近いあゆみを重ねてきました。

IPT2024は、印刷発行されたポスターのA部門、テーマ「Think()」での自主制作のB部門とU30+ Student部門の3部門で作品公募を行いました。4月の第一次審査によって世界78の国と地域からの応募全4557点から選抜された入選作390点に、実行委員・審査員からの招待出品を加えた計約420点で企画展示室がいっぱいになる、圧巻の展覧会です。開会直前の第二次審査会で、グランプリ以下、各賞が決定しました。賞決定は、ディーン・ブル氏(ニュージーランド)、ニッキー・ゴニッセン氏(オランダ)、永くIPTの審査に携わっていただいている浅葉克己氏、実行委員と第一次審査にも参画いただいた佐藤卓氏、三木健氏を加えた5名のデザイナーによって行われ、その審査は緊張感の中にも、新しいポスターと出会う高揚感に満ちていました。

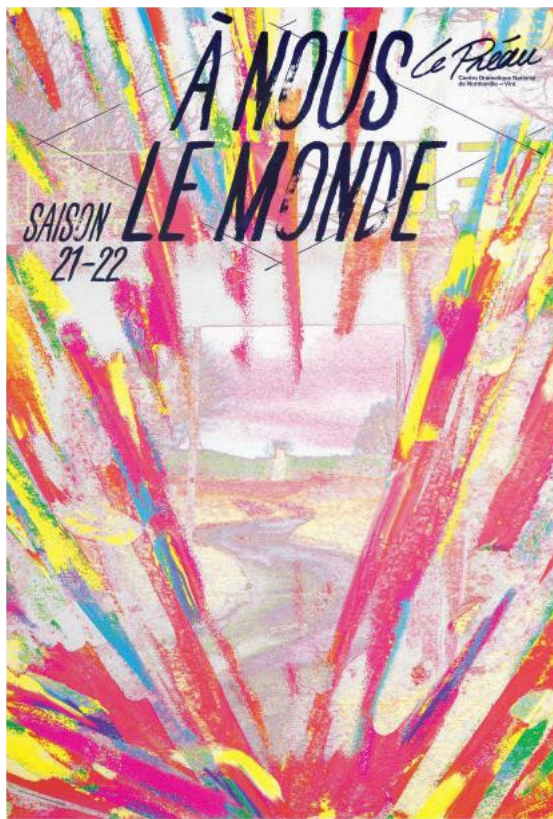
世界からポスターが集う会場そのものが、IPT2024の見どころです。ご来場される方ご自身の「グランプリ」を見つける気持ちで、あるいは、ポスターを通して富山で世界を旅するような気持ちで、IPTの会場を楽しんでいただければと思います。

開催概要

開館時間	9:30-18:00(入館は17:30まで)
休館日	水曜日、10月15日(火)、11月5日(火)
会場	富山県美術館2階 展示室2、3、4
主催	富山県美術館
後援	公益社団法人 日本グラフィックデザイン協会(JAGDA) 東京アートディレクターズクラブ(TOKYO ADC) 一般社団法人東京イラストレーターズ・ソサエティ(TIS) 「ポスターの街・とやま」実行委員会
協力	YKK株式会社
協賛	五洲薬品株式会社、NIX JAPAN株式会社(五十音順)
観覧料	一般1,300円(1,000円)、大学生650円(500円)、高校生以下無料 ※()内は、団体料金

※会期中に講演会、ギャラリートーク、子どものためのギャラリートัวร์などを予定しています。

詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。



1

1.グランプリ Grand Prix

〔A/B部門〕

シュベール・テラン

(カンタン・ボーダン、リュック・ド・フーケ、リュカ・メイエ)
(フランス)

《世界は私たちのもの!劇場シーズンプログラム告知》2021
(A部門)

2.金賞 Gold Prize

〔A/B部門〕

アトリエ・テア・ベッケ & ベハーヘ

(イヴリン・テア・ベッケ、ティルク・ベハーヘ)

(フランス/オランダ)

《P.A.N.G.パフォーマンス公演》2021、2022、2023

(A部門)

3.金賞 Gold Prize

〔A/B部門〕

ダーシャ・ボドルツェフ

(ウクライナ)

《〈望まない〉収穫物》2022

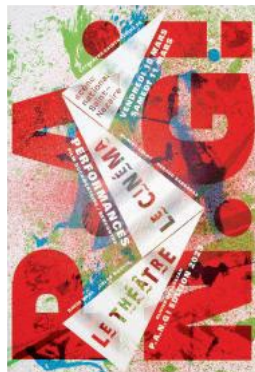
(A部門)

4.金賞 Gold Prize

〔U30+Student部門〕

フェン・ハンハン (中国)

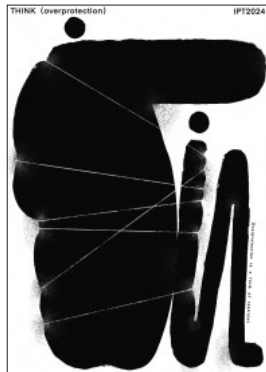
《THINK (過保護) 2》2023



2



3



4

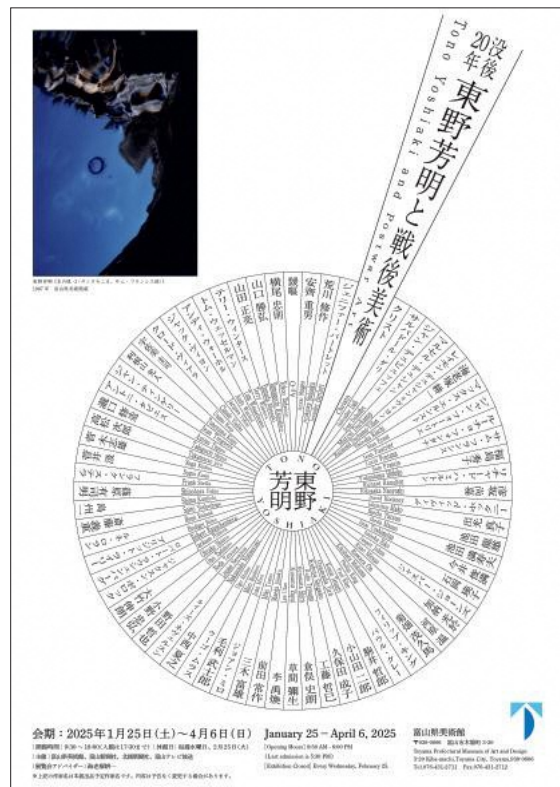
IPT2024 審査員

第一次審査員 色部義昭、上西祐理、川上典李子、佐藤卓、永井裕明、藤崎圭一郎、三木健、室賀清徳(五十音順)

第二次審査員 ディーン・プール(ニュージーランド)、ニッキー・ゴニッセン(オランダ)、浅葉克己、佐藤卓、三木健

没後20年 東野芳明と戦後美術

2025年1月25日(土) - 4月6日(日)



ポスタービジュアル Design: 永井裕明

東野芳明(とうの よしあき、1930-2005)は戦後に活躍した美術評論家です。1954年に東京大学を卒業した東野は、同年、評論「パウル・クレエ試論」が雑誌『美術批評』の新人評論募集で一席となり、美術評論家として歩み始めました。1950年代末に渡欧・渡米した東野は、そこで目にした欧米の「現代美術」をいち早く国内に紹介することに努め、60年代以降は、「反芸術」と称した同世代の芸術家たちの伴走者として、彼らの活動を後押ししました。東野は、創作現場での体験を交えた、臨場感に満ちた批評を執筆するのみならず、展覧会の企画にも携わり、国内外の作り手たちと多くの時間を共有しました。後年は、水をめぐる思索を深め、趣味の素遣りによる写真作品も制作しています。

東野の没後20年を記念して開催するこの展覧会では、当館のコレクション・資料を中心に、東野の美術評論家としての歩みを紹介します。東野は、当館の前身である富山県立近代美術館の運営委員を務めるなど、特に関りの深い評論家であり、当館のコレクション形成にも大きな影響を与えました。当館は東野が言及した芸術家の作品のみならず、東野旧蔵の資料(書籍、作品等)も収蔵しています。展覧会を通して、東野の批評と彼が見つめた美術を振り返ります。

開催概要

開館時間 9:30-18:00(入館は17:30まで)

休 館 日 毎週水曜日、2月25日(火)

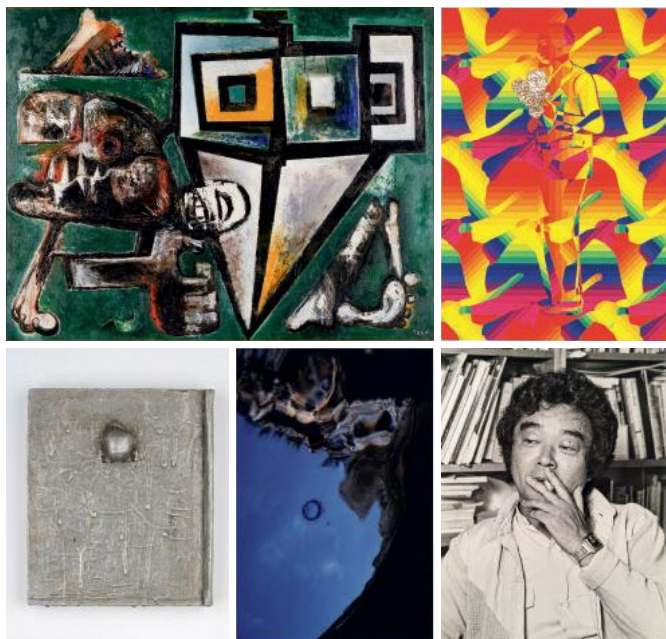
会 場 富山県美術館2階 展示室2、3、4

主 催 富山県美術館、富山新聞社、北國新聞社、富山テレビ放送

観 覧 料 一般1100円(850円)、大学生550円(420円)、高校生以下無料、一般前売り850円 ※()内は団体料金。

展覧会アドバイザー 海老塚耕一氏

見どころと出品作品



左上から時計回りに：

利根山光人《いけにえ（ダムシリーズ）》1956年 東京都現代美術館蔵

鏝嘔《I Love You B（東野芳明氏の肖像）》1975年 富山県美術館蔵

東野氏肖像写真※撮影者不詳

東野芳明《水の肌-2（サンタモニカ、サム・フランス邸）》1987年 富山県美術館蔵

《セルフ・ポートレート》1975年 個人蔵

POINT

美術評論家・東野芳明をテーマとする初めての展覧会

戦後に活躍した美術評論家「御三家」（東野芳明、中原佑介、針生一郎）の中で、これまで中原、針生をテーマとする展覧会は開催されましたが、東野をテーマとする美術館での企画展は初開催となります。

富山県美術館が所蔵する東野旧蔵作品・資料を展示

当館は東野旧蔵の作品、資料、書籍を所蔵しています。これまでもコレクション展等で一部を紹介してきましたが、本展では近年の調査を踏まえ、これまで未公開だった資料も含めて東野旧蔵作品・資料を大々的に展示します。

富山県美術館が所蔵するマルセル・デュシャン作品・関連作品を展示

当館は東野が批評等で言及した芸術家の作品を数多く所蔵しています。中でも東野がライフワークとして研究したマルセル・デュシャンに関しては、デュシャン自身による作品の他、関連作品を多数所蔵しています。本展ではデュシャン関連の作品・資料を一室に集めて展示します。

「民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある」関連イベント

トークイベント

7月13日(土) 14:00～15:30

登壇：テリー・エリス氏、北村恵子氏(MOGI Folk Artディレクター)
吉田泰樹氏(桂樹舎 代表取締役社長)



講演会「暮らしのなかの民藝」

8月4日(日) 14:00～15:30

講師：森谷美保氏(美術史家・本展監修者)

企画展「民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある」(7月13日(土)～9月23日(月・休))の会期中、様々なイベントを実施しました。

トークイベントでは、バイヤー、そして作り手というそれぞれの立場で20年以上の親交のあるMOGI Folk Artのお二人と、桂樹舎の吉田泰樹代表にお話いただきました。これまでの二組のコラボレーションで生み出された品々ができるまでの裏話や、私たちがよい品と出会うための秘訣などについてお話しいただきました。講演会では、美術史家・本展監修者である森谷美保氏に、「民藝」という考え方を提唱した柳宗悦の生涯と、その中で柳が見出していた品々の見どころや、柳と富山の関わりについて、柳の残した言葉を交えながらお話しいただきました。



ワークショップ「桂樹舎 八尾和紙型染め体験」

〈前編 型染め編〉8月10日(土) 14:00～15:30

〈後編 仕上げ編〉8月12日(月・休) 14:00～15:00

講師：桂樹舎 吉田泰樹氏、吉田睦乃氏

展覧会内「第三章 民藝の産地—作り手といま」で紹介された、国内5つの産地のうち、富山における産地として紹介されている、八尾和紙を製造する桂樹舎の吉田泰樹代表を講師に、和紙に色を付ける「型染め」を2日日程で体験するワークショップを行いました。定員12名の募集に対して約15倍のお申込みがあり、日ごろ製品を目にはするけれども、知っているようで知らない八尾和紙の製品の作り方への関心の高さがうかがえました。

ワークショップは、「型染め編」と「仕上げ編」の2日に分けて行いました。1日目には予め色のつかないように塗られた防染のりの上から、洗い落とした後の柄を想像しながら思い思いの模様を作り上げていく様子が見られ、「仕上げ編」では、糊を洗い落とすことで和紙の模様が初めてあらわになり、それを見た参加者の歓声が聞こえてきました。



まるごとTADこども美術館

マジカル手ヅクリーツアー

2024年10月12日(土)～2025年3月4日(火)

「まるごとTADこども美術館」は、子どもから大人までアートやデザインに親しんでもらうことを目指したイベントです。今年は、新聞紙×ガムテープアーティスト 関口光太郎さんとコラボレーションし、多彩なイベントを開催します。

①TAD×関口光太郎オープンラボ

新聞紙とガムテープで世界中のカチをつくろう
10月12日(土)～2025年1月21日(火)
10:00-12:00/14:00-16:00 ※最終入場は30分前まで
対象：どなたでも
会場：3階アトリエ(ラボ)
※申込不要、時間内随時受付



成果展

②まるごとTADこども美術館+

関口光太郎『世界さん』
『旅行』をテーマにTADワークショップ・オープンラボ参加者が関口さんと制作した作品を展示します。
会期：2025年1月30日(木)～3月4日(火)
公開制作：1月26日(日) 10:00～12:00 / 13:00～16:00
会場：1階TADギャラリー



③まるごとらべるつあ～!

当館の学芸員が作品や建物のみどころを紹介する鑑賞ツアーを開催します。

【たてもの編】
11月16日(土)
【ポストार्टリエンナーレ編】
12月14日(土)
【関口光太郎編】
2025年3月1日(土)

各回14:00～(約30分程度)
集合場所：2階 ホワイエ
※参加無料、事前申込不要



新聞紙×ガムテープアーティスト
関口光太郎さん

④まるごとTADバスポート

館内の作品をめぐるスタンプラリーを実施します。
10月12日(土)～2025年2月4日(火)
※なくなり次第終了

⑤ちいさなこどもたちのための ひよこツアー

親子で美術館デビュー!
未就学児向けの作品鑑賞と造形あそびをします。
開催日：2～3歳向け 2025年1月11日(土)
4～5歳向け 2025年1月12日(日)
各回10:00～(約90分を予定) ※要事前申込、抽選



☆申込フォームは、ウェブサイトのイベントページをご覧ください。
<https://tad-toyama.jp/exhibition-event/18569>



森・林 山城隆一

1995年 シルクスクリーン 109.7×79.2cm



たくさんの文字と文字。木々による美しい景色が、目の前に広がる。1959年の日本デザインセンター創設にも参加したグラフィックデザイナーの山城隆一(1920年~1997年)が制作したポスター、『森・林』。

山城は細やかな観察眼で、猫の姿を描き続けたアーティストとしても知られる。彼が1950年代に語った「デザインに悲しみは盛れないか」との言葉も、10代後半の時に真剣に詩人を目ざしていた山城ならではの姿を伝えるものとして語り継がれている。経済が発展し、社会が勢いよく前進していくなか、時代の動きと、情感がぬけ落ちることのない表現との間で、本人が抱き続けた想いを想像せずにはいられない。その山城が30代の時、広まりつつあったのが写真植字(写植)だった。鉛の文字を組み合わせる従来の活字とは大きく異なり、撮影した文字を印画紙等に焼き付けて文字組みをし、印刷する。この写植で表現されたポスターが『森・林』であり、漢字の象形性を生かしたデザインとしても秀逸だ。

山城は「僕が憑かれる色と形には、いつも言葉のざわめきが垣間みえる」⁽¹⁾との言葉を残した。当時の詩人達が試みたコンクリート・ポエトリーを思わせる作品ともいえるだろう。

さらに興味深いのは、日本のデザイン界をきり拓いてきたデザイナー達の心に留められてきた作品となっていることだ。

仲條正義(1933年~2021年)は本作品に触れて述べていた。「強さのある活字体の時代に、デザインとしての新しさや、詩情溢れる表現を持ち込んだのは山城さんから始まった」⁽²⁾。田中一光(1930年~2002年)は1997年、「山城風の自由で奔放なタイポグラフィの、その軽快な使い方は一世を風靡し、中でもポスター『森・林』は、デザイン史に残る傑作として今でもその力を失っていない」⁽³⁾と記している。

その田中が日本のポスターに関して記していた次の一文にも、「森・林」の魅力が重なってくるだろう。「いうまでもなくポスターは一枚の紙でできている。一次元の平面であり、内容は、日本の俳句や短歌のように消去法的に無駄が剥ぎとられ、芯だけに集約される」⁽⁴⁾

タイポグラフィで描かれた抒情詩で、風景画。『森・林』は、メッセージをビジュアルで伝える醍醐味を、自身の表現を探究することの重要性を、いつの時代も私たちに教えてくれる名作だ。木々の間をかるやかな風が吹き抜けていく。

(富山県美術館デザイン・ディレクター 川上典李子)

1：『現代日本のポスター展図録』（富山県近代美術館、1982年） 2：2017年、筆者によるインタビュー時の言葉より抜粋。

3：『山城隆一（世界のグラフィックデザイン 30）』（ギンザ・グラフィック・ギャラリー、1997年） 4：『デザインの前後左右』（白水社、1995年）

富山県美術館(TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20(富岩運河環水公園内) tel.076-431-2711 fax.076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>